地球化学 42, 79-98 (2008) Chikyukagaku (Geochemistry) 42, 79-98 (2008)

報 文

# 東濃ウラン鉱床周辺堆積岩中炭酸塩鉱物の 希土類元素に関する地球化学的研究

──高レベル放射性廃棄物地層処分に関するナチュラルアナログ研究の例──

土 橋 竜 太\*·鹿 園 直 建\*

(2007年12月15日受付, 2008年6月30日受理)

# Geochemical study of rare earth elements in carbonate minerals in sedimentary rocks around Tono uranium deposit, central Japan —An example of natural analogue study of geological disposal of

high-level nuclear waste-

Ryuta Dobashi\* and Naotatsu Shikazono\*

\* Department of Applied Chemistry, Faculty of Science and Technology, Keio University,

3-14-1, Hiyoshi Kohoku-ku, Yokohama, Kanagawa 223-8522, Japan

Carbonate minerals are ones of the most ubiquitous authigenic minerals in the sedimentary rocks. Therefore, we studied these minerals in order to clarify the retardation effect of radioactive elements, Am and Cm due to the incorporation of rare earth elements into carbonates.

The light rare earth element concentrations of carbonates in the sedimentary rocks in Tono uranium mine area, central Japan, are high compared to those of the bulk rock. Since light rare earth elements are chemical analogues to Am and Cm, it is likely that carbonates easily incorporate them. Therefore, it is expected that incorporation of Am and Cm into carbonates can retard long-term migration of these elements.

Calculations of the partitioning of rare earth elements between carbonates and groundwater suggest that the ionic radius and charge influence significantly the incorporation of Am and Cm into carbonates under actual underground geological environment.

**Key words**: carbonate, rare earth elements, partitioning, ionic radius, uranium deposit, natural analogue study

# 1. はじめに

わが国における高レベル放射性廃棄物とは原子力発 電の使用済み核燃料の再処理から発生する高レベル放 射性廃液をガラスで固化したガラス固化体である。地 層処分においては、このガラス固化体を金属からなる オーバーパックおよび主として粘土鉱物からなる緩衝 材によって覆った人工バリアと,地層という天然バリ アからなる多重バリアシステムによる処分方法が考え られている。天然バリアでは,岩石中の鉱物による放 射性核種の収着,取り込み,岩石中へのマトリックス 拡散等により放射性核種の移行を遅らせる効果(遅延 効果)が働くため,天然バリアは放射性核種を人間・ 生物圏から隔離する能力を持っている。高レベル放射 性廃棄物(使用済核燃料)の放射線量レベルが自然の

<sup>\*</sup> 慶應義塾大学理工学研究科開放環境科学専攻環境資 源エネルギー専修

<sup>〒223-8522</sup> 神奈川県横浜市港北区日吉3-14-1

ウラン鉱石のレベルに達するまでには数万年から数十 万年かかるため,長期にわたる安全性を確保する必要 がある。

この多重バリアシステムの長期安全性について短期 間における室内実験では明らかにすることはできな い。ナチュラルアナログ(天然類似現象)研究がその ための有効な方法と考えられている。このナチュラル アナログ研究とは、地層処分環境に類似した天然での 長時間の地学現象を観察することによってモデルの評 価をする研究である。特に物質移行を研究する上で、 ウラン鉱床周辺地域が格好のフィールドとなる。

東濃ウラン鉱床地域については、これまで様々なナ チュラルアナログ研究がなされている(金井ほか, 1991; Shikazono and Utada, 1997; Iwatsuki and Yoshida, 1999; Iwatsuki et al., 2002; Utada, 2003; 鹿 園・武藤, 2004)。吸着による放射性核種の遅延効果 については、鉱物等によるウランの吸着等から研究さ れているが(吉田, 1996),固溶体の生成に伴う鉱物 の取り込みによる遅延効果はほとんど研究されていな い。そこで、本研究では堆積岩中に普遍的に存在する 自生鉱物である炭酸塩鉱物を研究対象として、その分 析を行い、炭酸塩鉱物による遅延効果を支配する要因 について考察を行った。水野・岩月(2006)は、東 濃地域の花崗岩中の炭酸塩鉱物の希土類元素,ウラ ン、鉄濃度を測定し、これらのデータおよび熱力学的 考察に基づいて、地球化学的環境の長期的変遷につい て論じた。一方、本研究の目的は、炭酸塩鉱物中の希 土類元素濃度をもとに放射性核種の遅延効果について 論じることであり,水野・岩月(2006)とは,異なっ た視点から研究を行った。

高レベル放射性廃棄物中にはウランの中性子捕獲反応により生成したAm,Cm等の放射性元素が存在しているが,超ウラン元素は天然には存在しない。地層処分の安全性の評価にあたり,これらの核種の挙動を知ることは非常に大切である。本研究では,イオン半径,酸化状態,配位,錯形成等の性質の類似した希土類元素(本研究ではランタノイド)を用いた。Am,Cmは水溶液中で+3価をとり,イオン半径は100 pm,98 pmであり,+3価のLa,Ce,Smのイオン半径は104.5 pm,101.0 pm,95.8 pmであり(Shannon and Prewitt, 1969),これらの軽希土類元素とAm,Cmが化学的に類似しているといえる。近年,この類似性が注目され,カルサイトー水溶液間の希土類元素の分配に関する実験的研究(Terakado and Masuda, 1988; Zhong and Mucci, 1995; Lakshtaov and Stipp, 2004), 理論的研究 (Curti, 1999; 鹿園, 2002), カ ルサイト中の希土類元素の存在状態に関する研究 (Elzinga *et al.*, 2002) がいくつかなされている。こ れに反して, 天然の炭酸塩鉱物中の希土類元素の分析 結果を高レベル放射性地層処分と関連させ議論させた 研究は少ない (水野・岩月, 2006)。

## 2. 地質概要

東濃ウラン鉱床は岐阜県土岐市,瑞浪市にまたがる 土岐盆地北部および,可児郡御嵩町,可児市に広がる 可児盆地に分布している日本最大のウラン鉱床であ る。本地域のウラン鉱床は新第三紀中新世の主として 基底部付近の砂岩,礫岩層中に胚胎する砂岩型ウラン 鉱床である。東濃ウラン鉱床地域の地質図を Fig.1に 示す。

この地域からは多くの化石種が産し,またウラン鉱 床が存在しているために,今までに多くの地質学的研 究がなされてきた(糸魚川, 1974, 1992; Doi *et al.*, 1975; 糸魚川・津田, 1985; 小林, 1989; Yusa *et al.*,



Fig. 1 Geological map around Tono uranium deposit, central Japan (after Yusa and Yamakawa, 1992).

1993; Utada, 2003)。以下ではこれらの研究成果に基づいて,調査地域の地質概要を示す。

鉱床は各堆積盆地に発達するチャンネル構造と呼ば れる基盤花崗岩と新第三紀層との不整合面の凹所に形 成されている(動燃, 1994)。すなわちおおむね新第 三紀層堆積前の古河川系によって形成された構造と堆 積物に強く規制されて分布している(糸魚川, 1974)。鉱床の母岩は土岐夾炭層の礫岩,アルコース 砂岩,炭質砂岩,凝灰質砂岩,泥岩および明世累層の 含軽石凝灰質砂岩,細礫礫岩等である(動燃, 1994)。本地域では,土岐川北方域の土岐盆地北部か ら可児盆地東部にかけて,10余の鉱床が発見されて いる(Doi et al., 1975;小林, 1989)。本研究ではもっ とも規模の大きい月吉鉱床付近の堆積岩を研究対象と した。

月吉鉱床の地質は先新第三紀花崗岩類を基盤とし て、これを不整合に覆う中新世瑞浪層群、さらにこれ らを不整合に覆う鮮新世瀬戸層群からなる。瑞浪層群 は下位より土岐夾炭層下部層、同累層上部、明世累 層、宿洞累層および生俵累層が分布している(糸魚 川、1974)。

本地域の瑞浪層群は新第三紀層堆積前の古河川系に よって形成されたチャンネル構造を埋めた形で,隆 起・沈降を繰り返しながら堆積した。このチャンネル 構造は走向がほぼ東西の月吉断層によって規制されて いる(糸魚川, 1974)。

本地域の新第三紀層の基盤である花崗岩類は,白亜 紀末~古第三紀の土岐花崗岩であり,粗~細粒黒雲母 花崗岩が卓越している。一般に本花崗岩は深層風化を 受けており,不整合面下10m位までは脆弱である。 またしばしば,粘土化,緑泥石化の変質および黄鉄鉱 の鉱染ならびに多くの方解石細脈が認められている (Utada, 2003)。

 $(Utada, 2003)_{\circ}$ 

土岐夾炭累層はこの地域で産する亜炭の母岩であ る。本郷累層(糸魚川,1974)の一部まで含んだ瑞 浪層群下部の淡水成堆積層にあたる。土岐夾炭累層下 部層は基盤の花崗岩類を不整合に覆い,その分布はほ ぼ月吉チャンネルと一致している(糸魚川,1974)。 基底部は一般に礫岩であり,層厚は30mに達する。 この礫岩の上位は砂岩か砂質泥岩で構成され,亜炭層 とごく一部凝灰岩をはさむ(動燃,1994)。

土岐夾炭累層上部層は灰緑色凝灰質砂質泥岩~泥質 砂岩から構成され,風化すると黄色化し脆弱になる, 通称「鬼サバ」と呼ばれる特徴的岩相が発達してい る。これは層厚変化の激しい砂質軽石凝灰岩層であ り、大きな軽石および黒色火山岩片が多量に含まれ、 斑状の外観を呈する地層で、最大層厚は60mと推定 されている(動燃,1994)。また、上部では炭質物片 を含み、典型的鬼サバを欠く場合でも軽石に富み、軽 石凝灰岩、細粒凝灰岩を伴うことがある。

明世累層は土岐盆地全域に広く分布し,下部には礫 岩,砂岩,泥質細粒砂岩が発達するが,一般に火山性 物質が多く,細粒~中粒の凝灰質砂岩,凝灰質泥岩を 主体としており,数枚の凝灰岩を挟在する海成層であ る(糸魚川,1974)。

生俵累層は基底部に名滝礫岩(糸魚川, 1974)と 呼ばれる礫岩~砂岩を狭在する厚いシルト岩である。 シルト岩は海綿化石,うにの棘化石,珪藻化石に富 み,貝化石も産する。層厚は50m以上である(糸魚 川・津田, 1985;糸魚川, 1992)。

瀬戸層群は下位より土岐口陶土層および土岐砂礫層 からなる。土岐口陶土層は本地域における陶土鉱床を 形成しており、その分布範囲は偏っている(動燃, 1994)。

## 3. 試料,および分析方法

#### 3.1 試料

本研究で用いた試料は東濃ウラン鉱床地域の月吉鉱 床付近から得られたボーリングコア(岐明4, 6, 26, 42, 63, 84, 90, 112, 114, 115, 116, 117, 120, 121, 123, 137, 141, 151, 171, 229号),および月吉 断層から離れたところのボーリングコア(MSB-2, MSB-3)の計22本から,炭酸塩鉱物の多く含まれる 部分(主に土岐累層下部,このほかに土岐累層上部, 明世累層,基盤花崗岩)を計89ヶ所において各約100 ~200gの試料を採取した。Fig. 2に研究対象ボーリ ングコアの位置を示す。各ボーリングは,堆積岩(瀬 戸,生俵,明世,土岐累層)を対象になされており, 基盤岩(花崗岩)に達したところで掘削を終了してい る。深さは各ボーリングにより異なるが,おおむね 200m弱である。各試料の採取深度はTable 1~4の サンプル番号中に記した。

#### 3.2 分析方法

**3.2.1 鉱物の同定** 粉末にした岩石試料を用いて 粉末X線回折法 (XRD) により鉱物の同定を行った。 分析条件は以下の通りである。使用装置:RINT 1500,管球:Cu-Ka,電圧:40 kV,電流:20 mA, スキャンスピード:4.00°/min,測定範囲:4°~40°。



Fig. 2 Sampling point of boreholes.

**3.2.2 全岩希土類元素の定量** 粉末にした岩石試 料0.05gを15mlフッ素樹脂容器に量り取り,HF(46 wt%)=1ml,HClO<sub>4</sub>(60wt%)=0.8ml,HCl(35wt %)=0.5ml,HNO<sub>3</sub>(69%)=0.5mlを加え,120°C (ホットプレートの目盛の数値)程度の低温で一夜間 温めながら分解した。完全に分解後,MilliQ水を加 え,再び120°C程度で温めて蒸発させた。これを3回 繰り返し,酸を飛ばした。その後HNO<sub>3</sub>(69%)=2.5 mlを加え半日温め,この溶液をMilliQ水で50gに 定量した。この溶液2mlに100ppbのIn=1ml, 3.5%HNO<sub>3</sub>=7mlを加えたものを分析溶液とした。

誘導結合プラズマ質量分析法(ICP-MS)(横河電 気社製 HP 4500)を用いて,岩石試料中の希土類元 素の含有量を測定した。

3.2.3 炭酸塩鉱物中希土類元素の定量 炭酸塩鉱物を分解するため,試料0.2gを15mlフッ素樹脂容器に量り取り,1M酢酸溶液10mlを加えて15時間放置し,試料を分解した。東洋濾紙の5Cのろ紙でろ過後,ろ液をホットプレート上で加熱し蒸発乾固させた。これにHNO<sub>3</sub>=2.5mlを加え半日温め,この溶液をMilliQ水を加えて50gに定量した。この試料溶液をICP-AESと原子吸光法を用いて主成分(Ca,Mg,Mn,Na,K)を,ICP-MSで希土類元素を測定した。この方法は岡井(1998)に従った。

## 4. 分析結果

#### 4.1 鉱物同定の結果

XRD 測定結果より,岩石中に含まれている各鉱物のピーク相対強度をTable 1に示した。相対強度はそ

れぞれの鉱物の一番強いピーク強度を100としている。また代表的な XRD チャートの例を Fig. 3に示す。

主な鉱物は石英と斜長石で,カリ長石,角閃石,黒 雲母も確認された。石英や斜長石はほとんどの試料に おいて確認でき,最も多く含まれ岩石の大部分を構成 している。しかし,カリ長石は少なく,角閃石はまれ であった。このほかに少量の石膏,黄鉄鉱がほとんど の試料で確認できた。沸石として,ヒューランダイ ト,クリノプチロライト,アナルサイム,チャバザイ ト,モルデナイトが確認できた。特にヒューランダイ ト,クリノプチロライトは多く見られたが,深層ほど 多く,また土岐累層下部でよく見られた。

炭酸塩鉱物ではカルサイト,ドロマイト,シデライトが確認できた。しかし,炭酸塩鉱物の多くはカルサ イトで,ドロマイト,シデライトはまれであった。

スメクタイトはどの試料でも確認できたが,明世累 層では土岐累層に比べて強度が弱かった。

## 4.2 炭酸塩鉱物中の主成分元素,微量元素の分析 結果

1 M 酢酸分解法により得られた溶液中の Ca, Mg, Fe, Mn は全て炭酸塩鉱物から溶け出たとし,成分濃 度から炭酸塩鉱物の重量を求めた。Table 2に炭酸塩 鉱物中の主成分元素濃度を示す。また,炭酸塩を除い たバルク試料中と炭酸塩鉱物中の希土類元素を Table 3,4に,各層の炭酸塩鉱物のコンドライト規格化希 土類元素パターン(各層の平均値)を Fig.4に示す。

# 東濃鉱床炭酸塩の希土類元素の研究

Sample No.	Formation	Sm	Qz	Pl	Cal	Cli	Heu	Other minerals
112-123.0	Т	89	100	26	75	5	n.d.	Cha 8, Gyp 14
114-51.0	А	37	100	75	n.d.	n.d.	n.d.	
114-76.1	UT	67	n.d.	100	45	n.d.	n.d.	
114-90.0	UT	64	100	75	n.d.	n.d.	n.d.	Sid 15
114-115.8	LT	81	12	100	18	n.d.	n.d.	Ру 9
114-132.3	LT	100	n.d.	40	45	n.d.	n.d.	
114-133.8	LT	34	36	100	n.d.	n.d.	n.d.	Cha14
114-135.2	LT	44	100	65	25	9	13	
114-136.1	LT	85	100	86	55	n.d.	n.d.	Orth 75
114-172.3	В	49	90	30	100	n.d.	n.d.	Orth35
115-114.0	LT	78	100	35	22	n.d.	n.d.	
115-115.2	LT	2	59	100	5	4	n.d.	Anal 13, Orth 10
115-120.0	LT	100	n.d.	37	n.d.	n.d.	n.d.	
115-123.3	LT	66	37	100	22	n.d.	26	Orth 18
115-124.6	LT	57	100	47	9	n.d.	n.d.	
115-157.0	В	n.d.	100	n.d.	71	n.d.	n.d.	Orth 20
116-7.5	А	18	16	100	23	n.d.	n.d.	Amp 9, Mor 12 Sid 12
116-88.0	LT	12	4	100	4	n.d.	n.d.	Anal 16, Cha 14
116-118.0	В	n.d.	100	37	1	n.d.	n.d.	
116-129.5	LT	6	100	82	9	7	8	Amp 4, Orth 10
117-64.0	UT	77	43	100	9	n.d.	8	
117-70.0	LT	100	n.d.	57	21	n.d.	20	Anal 10, Py 13
117-77.0	LT	100	n.d.	83	13	n.d.	24	Bio 4
117-79.7	LT	63	13	100	30	n.d.	n.d.	Amp 4, Anal 19, Cha 8
117-93.5	LT	68	20	100	16	n.d.	n.d.	Cha 23
117-124.5	LT	5	6	100	4	n.d.	n.d.	Cha 3
117-133.0	LT	2	100	45	2	n.d.	n.d.	
120-40.4	А	72	100	78	n.d.	n.d.	n.d.	Dol 27
120-59.0	А	40	n.d.	53	100	n.d.	n.d.	
120-68.5	UT	57	30	100	22	n.d.	n.d.	Amp 8
120-73.9	UT	23	10	100	10	17	27	Sid 12
120-81.6	LT	80	100	40	n.d.	15	n.d.	
120-87.0	LT	79	100	45	41	n.d.	n.d.	Sid 17
120-89.2	LT	83	15	100	25	n.d.	23	Amp 15, Cha 11
121-127.5	LT	47	100	30	44	n.d.	n.d.	
121-146.0	LT	n.d.	7	100	7	n.d.	n.d.	
123-130.0	LT	66	100	48	20	n.d.	n.d.	
137-54.0	0	57	44	100	24	n.d.	30	Orth 31, Sid 17, Cha 25
137-140.0	LT	1	100	9	7	n.d.	n.d.	
141-118.7	LT	82	n.d.	100	26	n.d.	n.d.	
141-128.0	LT	87	100	28	23	n.d.	n.d.	
141-160.6	LT	n.d.	100	65	15	n.d.	21	Cha 30, Dol 10, Py 13
151-90.0	А	15	39	100	20	n.d.	34	α-Cri 31
151-112.0	UT	5	100	68	2	n.d.	n.d.	
171-50.0	UT	29	8	100	59	n.d.	n.d.	

Table 1 Relative intensity of X-ray diffraction.

171-55.5	LT	n.d.	100	42	3	n.d.	n.d.	Orth 10, Mor 9
171-56.1	LT	94	27	100	17	10	n.d.	Cha 18, Py 18
171-85.1	LT	28	83	100	23	4	n.d.	Cha 11, Py 11
171-88.0	LT	12	10	100	4	18	8	Orth 7, Amp 6
229-45.0	А	6	n.d.	100	17	n.d.	n.d.	Gyp 25
229-75.5	UT	31	n.d.	100	20	n.d.	n.d.	
229-105.0	LT	100	n.d.	83	16	n.d.	n.d.	
26-172.1	В	56	100	49	13	n.d.	n.d.	Orth 100
26-172.7	В	2	55	100	32	7	11	Amp 2, Cha 2, Sid 4, Py 3
42-108.8	А	71	57	100	16	n.d.	n.d.	Gyp 38
42-118.0	Т	33	100	42	4	n.d.	n.d.	Cha 12, Orth 100
4-75.0	UT	70	n.d.	100	18	20	n.d.	
6-118.6	Т	17	8	100	10	4	7	Cha 19
63-110.0	LT	100	n.d.	36	15	n.d.	n.d.	Orth 12, Dol 10
63-113.0	LT	53	39	100	12	n.d.	8	Cha 11, Py 7
63-118.0	LT	65	98	100	25	n.d.	12	Anal 21, Bio 8
83-140.0	Т	96	32	100	23	16	41	Orth 12
84-105.5	LT	49	100	62	6	n.d.	11	Amp 11
84-124.5	LT	100	n.d.	75	n.d.	n.d.	n.d.	
90-64.0	Т	100	14	61	22	n.d.	20	
90-102.0	Т	47	n.d.	100	10	n.d.	24	Orth 37, Cha 42, Sid 8
90-110.0	Т	100	n.d.	50	n.d.	20	n.d.	
90-123.0	Т	98	6	100	19	n.d.	n.d.	Cha 9
90-123.7	Т	58	76	100	14	8	19	Cha 21
MSB2-21	А	100	n.d.	12	3	n.d.	n.d.	Sid 7
MSB2-51	А	100	41	40	21	32	n.d.	α-Cri 35
MSB2-54	А	100	33	52	18	n.d.	68	α-Cri 25, Sid 24
MSB2-57	А	100	17	39	10	10	22	Gyp 10, Py 12
MSB2-77.9	А	100	27	69	20	n.d.	52	α-Cri 73, Dol 10
MSB2-102	Т	22	10	100	7	5	n.d.	Amp 8, α-Cri 10
MSB2-133.5	LT	29	22	100	11	11	n.d.	Sid 7
MSB3-5	А	10	9	100	3	6	7	α-Cri 3, Sid 3, Py 2
MSB3-7.1	А	6	25	100	18	5	n.d.	α-Cri 10
MSB3-22.1	А	21	10	100	n.d.	62	n.d.	Sid 7
MSB3-39.7	А	36	13	100	8	9	n.d.	Sid 9
MSB3-64	А	100	32	44	18	n.d.	13	Mor 27, α-Cri 24, Sid 13
MSB3-74.8	А	100	20	69	13	18	n.d.	Orth 30, Sid 8
MSB3-89.3	Т	32	10	100	5	13	n.d.	Bio 4, α-Cri 7, Orth 14, Sid 21
MSB3-99.1	Т	43	23	100	18	9	n.d.	Sid 5
MSB3-100.8	Т	100	n.d.	77	n.d.	12	n.d.	Sid 10, Mag 20, α-Cri 16
MSB3-129.6	Т	6	11	100	3	n.d.	6	Ру 4
MSB3-131	Т	3	60	100	67	n.d.	n.d.	α-Cri 2
MSB3-149	LT	4	18	100	3	n.d.	n.d.	
MSB3-181	LT	1	100	50	1	n.d.	n.d.	Bio 1, α-Cri 3, Sid 1

n.d.: not detected, O: Oidawara, A: Akeyo, T: Toki, UT: Upper Toki, LT: Lower Toki, B: Basement (granite). Sm: smectite, Qz: quartz, Pl: plagioclase, Cal: calcite, Cli: clinoptilolite, Heu: heulandite, Cha: chabazite, Gyp: gypsum, Sid: siderite, Py: pyrite, Orth: orthoclase, Dol: dolomite,  $\alpha$ -Cri:  $\alpha$ -cristbalite, Anal: analcime, Amp: amphibole, Hb: hornblende, Mor: mordenite, Bio: biotite.

Sample No. A-B means A: drill-core (Fig. 2) B: depth (m).

Relative intensity value for each mineral was calculated from the maximum intensity for each mineral.



Fig. 3 A Result of X-ray diffraction analysis (Sample 116-7.5). Sm: smectite, Hb: hornblende,  $\alpha$ -Cri:  $\alpha$ -cristobalite, Pl: plagioclase, Mor: mordenite, Qz: quartz, Sid: siderite, Cal: calcite, Anal: analcime.



Fig. 3 B Result of X-ray diffraction analysis (Sample 63-118.0).

## 5.考察

# 5.1 炭酸塩鉱物のコンドライト規格化希土類元素 パターンとテトラド効果

Fig. 4に示したコンドライト規格化希土類元素パ ターンにはテトラド効果がみられる。テトラド効果と は希土類元素の物理化学的パラメーターが,原子番号 順にLa-Ce-Pr-Nd, Pm-Sm-Eu-Gd, Gd-Tb-Dy-Ho,

Er-Tm-Yb-Lu と4つずつを組とする4本の曲線で表さ れるというものである(Peppard *et al.*, 1969)。Ce 異 常, Eu 異常, Pm のデータの不足により軽希土類元 素側でははっきり現れないことが多く, 3番目と4番 目,特に3番目に強く現れることが多い(Kawabe *et al.*, 1999)。

テトラド効果を見分ける指標として以下の式が用い られる。

$$(Dy)_{CN}/(Dy^*)_{CN} = (Dy)_{CN}/\{(Gd)_{CN}^{1/3}(Ho)_{CN}^{2/3}\}$$
(1)

ここで, (Dy)<sub>CN</sub>, (Gd)<sub>CN</sub>, (Ho)<sub>CN</sub>:コンドライトで規 格化した値。 (Dy)<sub>CN</sub>/(Dy\*)<sub>CN</sub>>1なら M型, (Dy)<sub>CN</sub>/(Dy\*)<sub>CN</sub><1ならW型のテトラド効果を示す(Irber, 1999)。</li>

東濃ウラン鉱床では花崗岩と地下水の水一岩石反応 により花崗岩から希土類元素が地下水へと溶出し,花 崗岩では M 型テトラド効果,地下水では W 型テトラ ド効果が見られる。また,花崗岩から溶けた希土類元 素が地下水により堆積岩中へ運ばれて,堆積岩には W 型のテトラド効果が見られることが明らかにされ ている(Takahashi *et al.*, 2002)。よって,炭酸塩鉱 物中の希土類元素のテトラド効果を見ることで,炭酸 塩鉱物の起源を知ることができる。

Fig. 5には炭酸塩鉱物の (Dy)cM(Dy\*)cN は1付近,または1以下(W型)であることが示されている。よって炭酸塩鉱物中の希土類元素パターンは地下水と同じW型か,テトラド効果が現れていないことを示しており,M型のテトラド効果が現れている試料は無い。また,バルク試料より炭酸塩鉱物の方がW型が強く現れている(Fig. 5)。炭酸塩鉱物は自生鉱物であり源岩中にはあまり含まれていないことからも,希土類元素は炭酸塩鉱物中に地下水から取り込まれたと考え

Sample No.	Са	Mg	Fe	Mn	Na	K	炭酸塩の抽出量(g)
112-123.0	37.3	1.52	0.76	0.74	1.64	0.23	1.78E-02
114-115.8	33.1	4.04	1.38	0.19	6.68	12.7	5.64E-03
114-132.3	36.7	1.44	1.65	0.94	1.76	0.22	2.30 E-02
114-133.8	28.6	3.88	6.89	0.40	6.22	11.1	4.34 E-03
114-135.2	34.3	1.92	3.15	0.54	2.69	7.60	7.92 E-03
114-136.1	22.1	4.48	14.1	0.47	4.66	0.74	6.24 E-03
114-172.3	11.9	9.66	17.74	n.d.	1.68	8.01	1.32 E-02
114-51.0	31.5	3.35	4.67	0.40	8.15	1.03	2.13 E-03
114-76.1	40.1	n.d.	0.76	n.d.	10.33	2.33	2.52 E-03
114-90.0	37.6	1.61	0.30	n.d.	7.69	1.07	3.47 E-03
115-114.0	14.4	9.64	14.8	0.08	8.49	6.15	8.78 E-03
115-115.2	32.1	3.39	3.06	0.13	11.4	31.85	1.97 E-03
115-120.0	20.4	9.96	7.03	n.d.	1.14	0.21	6.90 E-03
115-123.3	38.4	0.79	0.70	1.11	1.07	0.14	2.58 E-02
115-124.6	30.6	3.96	4.45	0.26	5.81	13.27	4.72 E-03
115-157.0	39.7	n.d.	0.38	0.12	0.07	0.16	5.46 E-02
116-118.0	17.7	1.56	23.9	0.36	26.0	18.5	2.57 E-04
116-129.5	33.7	1.94	3.92	0.37	6.59	16.1	3.62 E-03
116-7.5	37.8	1.18	0.28	0.29	3.18	3.86	7.26 E-03
116-88.0	36.2	2.03	0.33	0.82	1.59	12.4	7.77 E-03
117-124.5	27.4	5.29	5.85	0.43	6.44	18.5	2.02 E-03
117-133.0	34.1	2.10	3.10	0.45	1.66	4.57	2.57 E-03
117-64.0	34.0	3.48	1.19	0.24	3.82	11.6	4.77 E-03
117-70.0	34.4	3.03	1.20	0.49	4.70	14.4	6.89 E-03
117-77.0	34.5	2.71	1.80	0.23	5.32	14.2	4.78 E-03
117-79.7	22.9	8.02	6.82	0.37	2.51	2.39	1.04 E-02
117-93.5	33.3	2.71	2.82	0.67	4.44	9.69	6.40 E-03
120-40.4	36.9	1.83	0.68	0.09	6.23	1.48	3.09 E-03
120-59.0	38.0	0.80	0.92	0.15	6.16	13.7	3.82 E-03
120-68.5	38.7	0.66	0.34	0.12	5.02	13.5	3.81 E-03
120-73.9	37.0	1.64	0.60	0.22	5.29	23.9	3.19E-03
120-81.6	34.0	2.49	3.12	n.d.	6.57	1.38	6.72 E-03
120-87.0	10.9	6.04	25.04	n.d.	4.48	1.87	1.28 E-02
120-87.0	33.0	2.19	4.88	n.d.	6.77	0.86	6.04 E - 03
120-89.2	32.5	2.50	4.60	0.22	5.68	13.8	6.06 E-03
121-127.5	39.5	0.16	0.38	0.35	0.83	0.16	3.37 E-02
121-127.5	38.5	0.40	0.52	0.68	1.12	2.03	2.86 E-02
121-146.0	33.4	3.33	2.05	0.23	1.22	5.83	8.05 E-03
123-130.0	33.7	3.20	2.33	0.75	4.24	0.75	7.71 E-03
137-140.0	38.5	0.15	0.50	1.11	0.78	1.33	1.37 E-02
137-54.0	35.8	1.91	1.53	0.17	6.25	6.36	3.35 E-03
141-118.7	36.2	2.27	0.90	n.d.	6.61	0.49	6.76 E-03
141-128.0	33.7	3.15	2.40	1.22	3.85	0.39	1.17E-02
141-160.6	39.8	0.17	0.08	0.84	1.09	0.11	2.47 E-02
151-112.0	37.2	0.45	1.39	1.29	0.77	1.83	1.87 E-02

 $Table \ 2 \quad Major \ element \ concentration \ of \ carbonate \ minerals.$ 

Weight% for Ca, Mg, Fe, and Mn, and ppm for Na and K.

151-90.0	36.1	1.88	1.19	0.33	1.60	15.0	$3.04 \mathrm{E} - 03$
171-50.0	36.1	1.56	1.64	0.39	10.4	14.8	3.50 E-03
171-55.0	22.1	5.24	12.31	0.48	16.3	13.4	1.09 E-03
171-56.1	31.8	4.74	1.61	0.32	5.37	13.9	5.63 E-03
171-85.1	34.9	2.12	1.98	0.68	2.03	5.16	9.51 E-03
171-88.0	27.8	3.23	8.31	0.90	7.70	19.8	3.91 E-03
229-105.0	31.6	5.47	1.06	0.22	7.35	1.13	5.61 E-03
229-45.0	39.9	0.00	0.16	0.00	19.2	5.45	1.15 E-03
229-75.5	35.2	2.82	1.19	0.78	7.86	0.99	3.56 E-03
26-172.1	28.6	5.36	4.47	0.35	8.19	12.52	5.22 E-03
26-172.7	38.8	0.21	0.59	0.57	0.88	3.33	1.38 E-02
42-108.8	37.7	0.95	0.84	0.29	6.23	17.3	4.20 E-03
4-75.0	32.4	3.97	2.61	0.84	8.96	1.09	5.23 E-03
6-118.6	33.0	3.75	1.71	0.43	5.66	13.0	4.97 E-03
63-110.0	33.8	3.68	1.03	0.27	3.84	12.0	5.77 E-03
63-113.0	33.4	3.95	1.03	0.26	4.51	11.5	4.96 E-03
63-116.0	34.4	2.34	2.23	0.56	2.73	8.00	7.61 E-03
63-118.0	37.1	1.04	1.43	0.31	6.46	17.6	2.79 E-03
83-140.0	29.7	4.79	3.93	0.48	6.11	17.3	5.54 E-03
84-105.5	29.0	5.79	3.59	0.23	9.85	1.00	3.12 E-03
84-124.5	39.2	0.27	0.65	1.18	0.13	0.02	8.10 E-02
84-125.5	23.5	4.94	11.67	0.55	6.86	0.52	5.56 E-03
90-102.0	37.7	1.35	0.32	0.23	4.56	12.5	3.81 E-03
90-110.0	30.7	5.37	2.23	1.47	11.7	1.18	4.62 E-03
90-123.0	31.9	4.27	2.29	0.35	6.03	16.3	4.90 E-03
90-123.7	30.4	5.04	2.83	0.31	3.93	13.4	5.46 E-03
90-64.0	36.1	2.08	0.66	0.43	5.22	9.91	3.91 E-03
MSB2-102.0	29.8	4.09	5.13	0.39	1.43	123.8	3.78 E-03
MSB2-133.5	29.9	n.d.	8.22	n.d.	1.84	5.99	3.64 E-03
MSB2-51.0	29.9	4.98	3.24	0.61	1.08	13.8	4.32 E-03
MSB2-54.0	30.2	4.50	3.65	0.66	2.03	17.9	4.38 E-03
MSB2-57.0	33.3	3.46	1.79	0.48	0.63	23.0	3.52 E-03
MSB2-77.9	30.2	3.06	6.36	0.39	1.55	8.67	7.28 E-03
MSB3-100.8	31.5	3.39	4.14	0.46	0.45	4.52	6.32 E-03
MSB3-129.6	26.5	3.42	10.1	0.48	1.98	6.20	3.62 E-03
MSB3-131.0	38.9	0.14	0.22	0.88	0.09	1.17	3.22 E-02
MSB3-149.0	20.2	2.73	18.7	0.70	1.22	2.07	4.32 E-03
MSB3-181.0	32.9	1.10	6.17	0.60	0.77	4.85	1.49 E-03
MSB3-22.1	32.0	3.48	3.50	0.41	0.33	6.96	6.10E-03
MSB3-39.7	34.8	2.37	2.01	0.35	0.40	14.7	2.43 E-03
MSB3-5.0	31.5	3.90	3.21	0.53	2.76	1.62	3.69 E-03
MSB3-64.0	34.1	2.50	2.65	0.35	0.45	12.2	4.20 E-03
MSB3-7.1	34.0	2.27	2.72	0.75	0.80	1.09	9.04 E - 03
MSB3-74.8	32.4	2.87	4.06	0.33	1.17	17.2	4.87 E-03
MSB3-89.3	31.2	2.99	5.29	0.38	0.15	8.90	6.50 E-03
MSB3-99.1	35.3	1.62	2.25	0.77	0.11	4.92	9.71 E-03

 Table 3
 REE concentration of calcite (in ppm).

Sample No.	La	Ce	Pr	Nd	Sm	Eu	Gd	Tb	Dy	Но	Er	Tm	Yb	Lu
112-123.0	14.8	31.7	1.82	12.9	2.69	0.95	3.51	0.45	2.81	0.92	1.72	0.16	2.05	0.22
114-115.8	7.54	22.1	3.16	14.2	3.65	0.63	3.60	0.50	3.02	0.47	1.53	0.24	1.56	0.22
114-132.3	25.2	56.3	6.39	33.3	8.22	2.40	8.18	1.31	7.22	1.42	3.64	0.51	3.47	0.59
114-133.8	2.17	8.71	1.21	6.01	2.16	0.40	2.07	0.34	1.88	0.28	0.97	0.14	0.96	0.17
114-135.2	4.06	10.4	1.09	4.73	1.08	0.22	1.04	0.15	0.70	0.11	0.35	0.06	0.38	0.05
114-136.1	39.0	88.4	2.97	22.6	3.68	1.02	5.76	0.42	3.20	1.99	2.37	0.09	3.77	0.23
114-172.3	33.6	80.3	7.90	36.5	8.22	1.99	7.78	1.27	8.42	1.92	4.88	0.84	6.19	0.95
114-51.0	135.3	330.3	24.4	140.4	30.5	7.79	33.2	4.54	28.4	8.26	15.54	1.72	18.4	1.86
114-76.1	121.1	291.1	23.7	143.9	34.1	8.49	36.8	4.79	32.6	8.54	18.5	2.56	21.5	3.09
114-90.0	133.3	338.5	38.3	209.4	46.8	11.2	43.9	5.74	37.8	8.00	21.2	2.92	22.1	3.28
115-114.0	71.6	156.5	16.5	75.6	16.5	4.34	15.7	2.61	15.4	3.22	8.65	1.34	9.50	1.42
115-115.2	14.4	33.5	5.06	20.4	4.67	0.89	4.40	0.69	3.93	0.70	2.14	0.35	2.31	0.35
115-120.0	56.2	160.8	18.0	92.5	22.9	5.64	21.7	3.44	20.7	4.17	10.6	1.58	11.3	1.63
115-123.3	19.7	41.0	4.33	23.1	5.63	1.36	6.06	1.04	6.05	1.26	3.36	0.51	3.74	0.60
115-124.6	3.74	11.3	1.88	8.78	2.80	0.55	2.49	0.41	2.17	0.33	1.07	0.15	0.95	0.16
115-157.0	7.42	13.4	0.27	1.55	0.10	0.02	0.40	0.02	0.20	0.21	0.24	0.01	0.40	0.03
116-118.0	13.2	30.7	3.98	14.8	3.69	0.16	2.87	0.43	2.21	0.36	1.19	0.19	1.29	0.21
116-129.5	18.1	39.1	5.06	20.4	4.76	0.60	4.34	0.71	4.00	0.68	2.06	0.34	1.92	0.31
116-7.5	55.9	106.7	14.2	66.7	14.3	3.06	17.1	2.59	17.3	3.56	12.1	1.85	12.3	2.13
116-88.0	6.13	15.0	1.85	8.73	2.26	0.60	3.29	0.61	3.94	0.87	2.80	0.43	2.63	0.40
117-124.5	9.66	28.6	4.08	17.9	4.72	0.63	4.17	0.68	3.67	0.60	1.82	0.31	1.94	0.29
117-133.0	8.02	12.6	1.53	4.86	0.80	0.06	0.60	0.10	0.44	0.09	0.23	0.04	0.20	0.02
117-64.0	2.42	6.98	1.09	5.28	1.49	0.35	1.30	0.23	1.09	0.18	0.56	0.09	0.60	0.10
117-70.0	9.16	28.0	4.63	22.4	5.79	1.35	5.14	0.63	3.14	0.46	1.37	0.19	1.30	0.20
117-77.0	5.13	15.6	2.70	13.1	4.12	0.87	3.44	0.55	2.97	0.47	1.40	0.22	1.31	0.23
117-79.7	22.3	79.3	12.0	53.0	12.2	2.77	11.5	1.80	10.2	1.59	4.73	0.75	4.30	0.65
117-93.5	14.3	46.0	6.47	30.1	8.29	1.33	7.91	1.06	6.09	1.01	2.88	0.47	2.86	0.43
120-40.4	61.7	141.8	4.37	45.6	10.3	2.60	13.8	1.50	10.8	4.58	7.25	0.67	9.37	0.97
120-59.0	2.94	7.88	1.29	6.07	1.69	0.35	1.42	0.24	1.25	0.24	0.69	0.11	0.72	0.13

土橋 竜太・鹿園 直建

0.11	0.41	0.29	0.15	0.16	0.94	0.40	1.64	0.69	0.17	0.15	09.0	0.38	0.06	0.98	0.38	0.18	0.10	0.19	0.31	0.08	0.32	65.6	1.05	0.21	60.0	0.10	0.50	0.31	0.19	0.11	0.30
0.75	2.73	3.77	1.92	1.08	5.80	2.48	9.82	5.45	1.10	0.88	5.35	3.22	0.95	6.28	2.65	1.14	0.65	1.44	1.87	0.63	4.48	71.5	9.50	1.38	0.52	0.53	5.92	1.72	1.07	0.73	2.04
0.11	0.40	0.15	0.08	0.15	0.80	0.31	1.46	0.50	0.18	0.12	0.45	0.31	0.04	0.91	0.44	0.17	0.11	0.22	0.28	0.10	0.15	8.55	0.58	0.19	0.10	0.08	0.36	0.28	0.16	0.13	0.27
0.68	2.53	2.84	1.44	0.94	4.92	2.00	9.34	4.27	1.23	0.78	4.78	2.92	0.74	5.70	2.97	1.01	0.63	1.31	1.91	0.67	3.00	64.2	5.92	1.26	0.47	0.45	4.30	1.58	1.12	0.76	1.94
0.22	0.87	2.02	1.04	0.32	1.44	0.76	2.69	2.26	0.44	0.27	2.61	1.54	0.54	1.73	0.98	0.35	0.20	0.47	0.63	0.24	2.34	28.4	3.99	0.42	0.17	0.11	2.75	0.45	0.35	0.27	0.64
1.19	5.21	4.54	1.80	2.08	7.80	3.27	13.4	6.91	2.93	1.53	9.56	5.50	1.18	8.54	5.99	1.96	1.16	3.11	3.68	1.46	4.35	117.40	7.71	2.31	1.05	0.71	7.00	2.74	1.99	1.51	3.59
0.21	0.94	0.72	0.23	0.42	1.29	0.51	2.21	1.05	0.58	0.29	1.71	0.87	0.20	1.41	1.04	0.34	0.23	0.67	0.68	0.34	0.67	20.7	1.11	0.42	0.20	0.13	1.12	0.42	0.38	0.27	0.68
1.24	7.04	7.45	2.71	2.62	8.22	3.29	13.0	8.13	4.41	1.49	14.1	7.19	1.98	7.50	6.82	1.95	1.12	4.42	3.90	2.13	7.43	129.7	10.1	2.58	1.37	0.79	10.1	2.74	2.44	1.89	4.45
0.29	1.72	2.22	0.74	0.71	2.07	06.0	2.54	1.78	0.89	0.38	3.48	1.73	0.35	1.50	1.20	0.48	0.16	1.04	0.87	0.52	1.53	29.7	2.08	0.58	0.32	0.17	2.71	0.48	0.76	0.38	0.92
1.39	8.01	7.46	1.65	3.07	7.45	2.97	11.2	6.32	6.27	1.84	13.0	6.49	1.58	7.50	7.14	2.15	1.08	5.38	4.32	2.79	5.15	128.8	5.15	2.81	1.71	0.93	9.84	2.56	2.74	2.06	4.81
4.66	31.4	30.2	8.52	9.98	34.3	13.6	49.7	29.3	36.2	6.13	50.3	26.7	11.8	31.5	32.5	7.65	3.17	18.9	14.2	12.1	25.5	572.2	28.7	9.67	10.4	2.70	44.1	9.88	8.57	6.75	16.1
1.02	6.82	3.91	0.65	1.93	8.18	2.62	11.3	4.53	10.2	1.31	7.42	4.22	2.57	7.62	7.82	1.75	0.76	3.90	2.86	2.76	2.30	113.3	2.13	2.11	3.00	0.65	6.52	2.08	1.79	1.44	3.39
5.77	42.1	74.6	31.0	11.4	63.5	27.6	84.2	74.8	88.8	8.04	93.8	55.4	38.0	76.9	60.5	8.73	4.85	25.0	17.9	21.7	74.3	1159.1	110.6	13.7	24.9	3.38	106.4	14.6	10.7	9.08	24.0
2.09	16.5	32.4	14.0	3.69	32.4	13.3	42.4	33.0	34.7	2.95	37.0	23.3	19.0	31.0	23.6	4.20	1.90	8.26	6:39	7.32	31.8	488.1	48.9	5.54	11.0	1.75	43.2	6.44	3.74	3.22	7.30
120-68.5	120-73.9	120-81.6	120-87.0	120-89.2	121-127.5	121-127.5	121-146.0	123-130.0	137-140.0	137-54.0	141-118.7	141-128.0	141-160.6	151-112.0	151-90.0	171-50.0	171-55.0	171-56.1	171-85.1	171-88.0	229-105.0	229-45.0	229-75.5	26-172.1	26-172.7	42-108.8	4-75.0	6-118.6	63-110.0	63-113.0	63-116.0

## 東濃鉱床炭酸塩の希土類元素の研究

89

0.05	0.13	0.79	0.12	0.61	0.18	0.93	0.19	0.45	0.06	1.55	1.21	1.30	2.26	0.85	1.65	0.67	2.33	0.64	3.16	8.30	1.45	0.94	2.28	1.06	2.06	0.91	0.66	0.52
0.25	0.82	9.10	0.85	6:59	1.08	8.04	1.31	3.09	0.35	8.47	6.67	6.35	11.7	3.97	9.38	3.74	14.2	3.77	16.8	50.4	8.38	4.73	14.4	5.61	11.0	4.81	4.12	2.87
0.04	0.11	0.52	0.10	0.55	0.15	0.58	0.21	0.49	0.04	1.43	0.91	1.04	1.97	0.65	1.47	0.67	2.32	0.65	2.74	7.62	1.39	0.70	2.20	0.89	1.73	0.81	0.64	0.47
0.20	0.78	7.25	0.65	5.14	0.98	5.76	1.33	3.22	0.24	8.59	5.99	7.65	12.6	4.66	9.36	4.20	14.92	4.23	16.9	42.6	9.29	4.86	13.9	6.04	10.2	5.15	3.85	3.13
0.07	0.28	4.56	0.26	2.99	0.34	3.25	0.43	1.06	0.07	2.97	2.19	2.60	4.09	1.71	3.45	1.52	4.93	1.42	5.37	12.81	3.47	5.18	5.14	2.00	5.05	1.96	1.37	1.22
0.43	1.79	11.9	0.98	9.73	1.85	8.61	2.35	6.72	0.43	18.3	12.6	15.0	24.5	8.77	19.5	9.51	32.3	8.26	29.4	68.3	19.4	8.65	26.6	11.3	17.9	11.7	9.25	7.53
0.08	0.37	1.78	0.13	1.65	0.35	1.26	0.46	1.20	0.08	3.42	2.00	2.51	3.66	1.89	3.37	1.69	4.88	1.31	4.53	9.53	3.42	5.05	5.15	1.96	4.86	2.15	1.67	1.38
0.44	2.28	16.90	0.91	12.6	2.16	10.6	2.82	7.71	0.44	25.3	12.4	18.6	30.2	12.0	23.8	13.3	35.3	9.46	28.9	49.6	25.3	9.93	32.1	14.2	18.8	15.4	12.0	10.5
0.11	0.60	2.97	0.18	3.54	0.50	1.70	0.51	1.59	0.11	4.47	1.63	3.98	6.68	2.80	6.19	2.81	5.90	0.80	2.33	3.64	5.16	1.58	7.27	3.80	3.72	3.98	3.22	1.86
0.56	2.78	12.7	0.66	11.2	2.54	7.48	2.79	7.92	0.41	28.4	14.4	22.3	33.8	13.8	27.5	14.8	42.9	9.48	25.5	44.8	28.1	11.1	39.7	17.1	20.5	19.8	16.0	11.8
1.74	9.7	55.3	3.55	41.3	8.32	34.4	10.1	33.8	1.44	87.3	37.8	75.1	129.5	51.6	86.6	50.7	129.6	44.5	82.3	155.8	109.6	35.0	141.9	57.8	77.7	68.5	56.3	40.0
0.42	2.17	7.26	0.71	5.62	1.74	4.23	2.20	7.96	0.31	17.2	7.73	15.5	28.9	10.4	18.1	9.82	28.3	10.9	17.9	39.9	25.4	7.05	31.5	11.8	17.6	15.5	12.1	8.4
3.46	13.4	158.1	9.98	93.8	11.9	104.3	15.6	64.5	2.59	104.5	53.1	99.3	191.7	65.1	105.9	61.6	180.4	89.6	113.2	393.8	156.5	42.7	200.3	77.3	114.5	95.1	74.3	51.3
0.95	5.21	64.3	5.07	38.6	3.95	43.5	5.15	20.7	0.85	31.6	16.5	36.3	72.3	25.7	35.7	19.0	56.2	38.1	45.6	123.3	61.0	15.3	76.1	29.5	46.0	36.1	25.0	18.0
63-118.0	83-140.0	84-105.5	84-124.5	84-125.5	90-102.0	90-110.0	90-123.0	90-123.7	90-64.0	MSB2-102.0	MSB2-133.5	MSB2-51.0	MSB2-54.0	MSB2-57.0	MSB2-77.9	MSB3-100.8	MSB3-129.6	MSB3-131.0	MSB3-149.0	MSB3-181.0	MSB3-22.1	MSB3-39.7	MSB3-5.0	MSB3-64.0	MSB3-7.1	MSB3-74.8	MSB3-89.3	MSB3-99.1

Sample No.	Formation	La	Ce	Pr	Nd	Sm	Eu	Gd	Tb	Dy	Но	Er	Tm	Yb	Lu
112-123.0	Т	14.4	28.9	3.07	14.6	3.11	0.90	3.16	0.48	3.11	0.62	1.72	0.24	1.80	0.28
114-132.3	LT	11.1	23.0	2.22	10.7	2.28	0.79	2.48	0.38	2.34	0.52	1.29	0.19	1.44	0.20
114-136.1	LT	11.7	26.4	2.44	11.3	2.50	0.61	2.39	0.41	2.53	0.56	1.45	0.23	1.70	0.27
114-172.3	В	8.27	21.6	2.55	12.2	3.09	0.52	2.51	0.38	2.02	0.45	1.05	0.15	1.37	0.19
114-51.0	А	19.0	39.5	4.51	19.1	3.83	0.96	3.30	0.56	3.38	0.67	1.84	0.29	2.10	0.33
114-76.1	UT	18.7	38.6	4.40	18.8	3.76	0.93	3.41	0.55	3.43	0.66	1.97	0.30	2.07	0.33
114-90.0	UT	20.7	43.3	4.91	21.4	4.12	1.19	3.90	0.65	3.79	0.75	2.19	0.36	2.21	0.35
115-114.0	LT	4.90	12.3	0.86	5.64	1.40	0.29	1.53	0.18	1.07	0.34	0.56	0.06	0.72	0.08
115-120.0	LT	10.3	23.3	2.24	10.5	2.27	0.69	2.34	0.36	2.25	0.50	1.29	0.19	1.47	0.21
115-123.3	LT	9.63	19.5	1.86	9.07	1.92	0.62	2.13	0.37	2.29	0.54	1.36	0.22	1.58	0.23
115-157.0	В	7.67	17.5	0.97	4.67	0.99	0.07	1.19	0.19	1.48	0.42	1.03	0.16	1.34	0.20
120-40.4	А	17.8	39.3	4.35	18.8	3.55	1.13	3.50	0.60	3.58	0.69	1.96	0.31	2.13	0.33
120-81.6	LT	10.6	22.1	2.17	10.7	2.26	0.84	1.99	0.29	1.74	0.42	0.92	0.12	1.03	0.13
120-87.0	LT	8.17	15.1	1.09	5.93	1.13	0.49	1.31	0.18	1.30	0.38	0.83	0.12	0.99	0.14
121-127.5	LT	10.9	22.7	2.26	11.3	2.29	0.74	2.40	0.37	2.27	0.53	1.33	0.19	1.46	0.22
123-130.0	LT	12.6	27.5	2.82	13.4	2.88	0.87	2.91	0.46	2.88	0.61	1.62	0.27	1.83	0.29
141-118.7	LT	10.4	22.2	2.21	10.8	2.37	0.76	2.49	0.37	2.39	0.54	1.36	0.19	1.53	0.22
141-128.0	LT	9.02	19.9	1.80	9.09	2.01	0.66	2.17	0.34	2.08	0.49	1.19	0.17	1.28	0.19
141-160.6	LT	9.74	20.5	1.77	8.48	1.68	0.50	1.91	0.29	1.84	0.46	1.08	0.16	1.34	0.18
229-105.0	LT	11.7	25.9	2.88	13.7	2.88	0.81	2.73	0.44	2.67	0.56	1.43	0.21	1.56	0.24
229-45.0	А	18.0	38.0	4.27	18.8	3.66	0.95	3.36	0.55	3.37	0.65	1.89	0.30	2.11	0.33
229-75.5	UT	16.3	36.3	4.03	17.7	3.52	1.13	3.19	0.52	3.17	0.64	1.75	0.28	1.99	0.31
4-75.0	UT	11.0	24.8	2.24	10.3	1.93	0.59	1.86	0.28	1.84	0.43	1.03	0.15	1.21	0.16
84-105.5	LT	11.7	24.5	2.61	12.0	2.78	0.74	2.78	0.50	3.03	0.62	1.74	0.29	2.00	0.33
84-124.5	LT	7.21	15.0	1.09	5.70	1.21	0.37	1.41	0.21	1.42	0.40	0.93	0.13	1.13	0.15
84-125.5	LT	10.1	22.6	2.24	10.9	2.41	0.80	2.61	0.42	2.53	0.56	1.45	0.21	1.54	0.22
90-110.0	Т	13.5	30.6	3.40	15.8	3.45	0.89	3.21	0.56	3.36	0.66	1.86	0.29	2.08	0.34

Table 4 REE concentration of bulk rock (in ppm).



Fig. 4 The average chondrite-normalized REE pattern of the carbonate in Akeyo and Toki upper and lower formations.



Fig. 5 Comparison of  $(Dy)_{\text{CN}}/(Dy^*)_{\text{CN}}$  of carbonate mineral with that of bulk rock.

### られる。

Fig. 4から、炭酸塩鉱物中には軽希土類元素が中・ 重希土類元素に比べて濃縮していることがわかる。高 レベル放射性廃棄物に含まれている Am, Cm 等は希 土類元素の中でも特に軽希土類元素と類似しているの で、炭酸塩鉱物は Am や Cm を多く取り込むと考え られる。

また, Fig. 4の各層の平均パターンは類似しており, 値は明世累層が比較的大きい。明世累層の希土類 元素濃度は土岐累層の希土類元素濃度よりも高く, これは源岩中の希土類元素濃度の相違を反映した可能性



Fig. 6 The average groundwater-normalized REE pattern.

がある。各層のパターンは似ているので,希土類元素 の分別は同じように起こったと考えられる。

## 5.2 分配係数

5.2.1 炭酸塩鉱物中の希土類元素,特に Ce の分配 係数の特徴 カルサイトに対する希土類元素の分配実 験の結果より, Ce は希土類元素の中で最もみかけの 分配係数が大きく, Nd も希土類元素の中では大きい 方といえる (Zhong and Mucci, 1995; Curti, 1999)。 みかけの分配係数 (*Kd*(*REE*)) は次式で定義される。

$$Kd(REE) = (X_{Me}[Ca]) / (X_{Ca}[Me])$$
(2)

ここで, X<sub>Me</sub>, X<sub>Ca</sub>: Me, Caのカルサイト中のモル分率, [Ca], [Me]: Ca, Meの溶液中のモル濃度。

Table 5に示されるように、Ceの値が2405と非常 に大きな値を示している。これは Ce が Ca のイオン 半径に非常に近いためであると考えられる。Caのイ オン半径は100 pm, Ceのイオン半径は101.0 pm で ある。分配係数は必ずしもイオン半径が近いと大きく なるものではなく、電荷の違いや端成分のもつ構造的 特性等によって値が変わってくる。しかし希土類元素 は元素の基底状態での電子配置に f 軌道がはじめて姿 を現す元素であり、化学的性質はきわめて一様であ る。LaからYbは一様に+3の酸化状態を取りやす い。これは原子の内殻の外側の電荷に対して4f電子 が極めて敏感で、電荷が+3より高くなると4f電子が しっかり保持されて化学反応には通常利用できなくな るためと考えることができる。このような類似性のた め、イオン半径の違いにより分配係数が決まることが 考えられる。

Pr Nd Gd Th La Ce Sm En Dy Ho Er Yb 2340 2405 2220 1080 1270 800 795 335 250 130 100 65

Table 5 Apparent partition coefficient of REE (Curti, 1999).

Fig. 4から炭酸塩鉱物中にCeやNdが濃縮してお り、特にCeの濃縮が顕著であることがわかる。これ は Ce のカルサイトに対する分配係数が大きいこと と、Ceが例外的な酸化状態をとることの2点による ためであろう。希土類元素にはいくつか異常な酸化状 態があり、そのような状態がよく見られるのは、イオ ンの副殻が空になる時(f<sup>0</sup>),半分充満するとき(f<sup>7</sup>), またはすべて充満するとき (f<sup>14</sup>) である。f<sup>1</sup>イオンで ある Ce<sup>3+</sup>は,f<sup>0</sup>イオンの Ce<sup>4+</sup>に酸化され得る。この ような酸化還元状態の変化に伴って、Ce<sup>4+</sup>が酸化物や 水酸化物となり、炭酸塩鉱物と共沈することがある。 しかし、少なくとも現在の地下水の希土類元素パター ン (Takahashi et al., 2002) には、Ceの負の異常が あまり見られないことから、沈殿物が生成した可能性 は低いと考えられる。一方で、古い時代の地下水では このようなことが起こったとも考えられるので、今後 の詳しい検討が必要である。

5.2.2 分配係数に対するイオン半径,電荷,スペ シエイションの影響 炭酸塩鉱物への分配反応を考察 するために各元素の分配係数を求めた。地下水データ として不整合面付近に帯水する地下水データ (Takahashi *et al.*, 2002)を用いた。求められた希 土類元素分配パターン(元素濃度の平均値)をFig.6 に示す。

この分配係数と分配パターンは、様々な要因により 決められるが(鹿園, 2002;田中, 2005;金井, 2007),以下では、イオン半径,電荷,スペシエイショ ンと分配係数,分配パターンとの関係についての考察 を行う。

現在の地下水の希土類元素パターン(Takahashi et al., 2002)には、Euの負の異常がみられる。Ce, Pr で分配係数が最大で、イオン半径がCaに近い軽希土 類元素の分配係数が大きく、Caよりも小さい重希土 類元素は分配係数が小さい。ここで見られる傾向は、 Table 5に示したこれまでの実験結果と調和的であ る。すなわち、共に軽希土類元素の分配係数が中・重 希土類元素のそれより大きく、Ceの分配係数が最大 である。ただし、Fig. 6に見られる Euの正異常は、 Curti (1999)ではみられていない。また、Curti



Fig. 7 Ionic radius vs apparent partition coefficient is taken from Curti (1997).

(1999)では中希土類元素から重希土類元素にかけ て、分配係数は徐々に減少しているが、今回の結果で は、Yb、Luで高くなっている。幾つかの例外がある ものの、以上の傾向より、東濃ウラン鉱床周辺堆積岩 中での希土類元素の炭酸塩鉱物への分配反応ではイオ ン半径の影響が強いと考えられる。

次に、希土類元素とアルカリ元素、アルカリ土類元 素のイオン半径の影響を、Fig.7に示すイオン半径と 分配係数(個々の試料でのKd 値の平均値)の関係か ら考察する。この図から、イオン状態の電荷が+3価 である希土類元素の分配係数が+1価のアルカリ元 素,+2価のアルカリ土類元素等の他の元素に比べ極 めて高いことがわかる。また、イオン半径が Ca の100 pm よりも小さいか、わずかに大きい範囲ではイオン 半径と分配係数には正の相関があり、100 pm よりも イオン半径が大きい範囲では非常に小さい値をとって いる。分配反応では Ca サイトと置換するため、Ca のイオン半径よりも大きい元素は分配係数が小さくな ることが考えられる。一方で、Naのイオン半径はCa に近いのにも関わらず分配係数は非常に小さい。これ は、分配メカニズムの違いによるものである。Na は Caと同形置換をしないで、カルサイト表面に作られ



Fig. 8 Fraction of REE species in Tono groundwater.

る結晶欠陥に取り込まれるのであろう (Busenberg and Plummer, 1985)。

アルカリ元素では、イオン半径が大きい方が分配係 数が大きいようにみえる。これらの元素は水中では水 和するが、水和数はイオン半径が大きいほど少ない。 よってイオン半径が大きい元素ほど脱水してフリーイ オンになる際のエネルギーが小さくなるため、イオン 交換が起こりやすく、その結果分配係数が大きいと考 えられる。

また,アルカリ土類元素はイオン半径が大きくなる につれ分配係数が小さくなる。これは Ca とのイオン 交換において,イオン半径が大きい元素ほど Ca のサ イトに置換しづらく,分配係数が小さくなるためと考 えられる。

以上より、イオン半径やイオン状態での電荷が分配 反応に対して影響を及ぼすことが考えられる。

(2)式は見かけの分配係数であり,反応式に対応した ものではない。したがって pH 等の条件が変わればこ の分配係数は変化する。炭酸塩鉱物一水溶液間の希土 類元素の分配に対して,水溶液中での希土類元素のス ペシエイションが影響を与える。希土類元素は水溶液 中でフリーイオンとともに錯体を形成する。地下水で は一般に炭酸塩錯体が卓越するので,炭酸塩鉱物への 分配反応を考える場合,

$$REE^{3+} + CO_3^{2-} = REECO_3^+$$
 (3)

 $REECO_{3}^{+} + CO_{3}^{2-} = REE(CO_{3})_{2}^{-}$ (4)

$$\mathbf{REECO}_{3}^{+} + \mathbf{CO}_{3}^{2-} + \mathbf{Na}^{+} = \mathbf{NaREE}(\mathbf{CO}_{3})_{2}$$
(5)

等の反応式が重要になってくる。希土類元素は低温の 水中では多くの場合、REE<sup>3+</sup>、REECO<sub>3</sub><sup>+</sup>、REE  $(CO_3)_2^-$ の状態で存在している。そこでまず、水中で の全希土類濃度に対するこれらの溶存状態の割合を以 下で求める。

希土類元素全濃度は以下の式で表される。

$$[REE]_{total} = [REE^{3+}] + [REECO_3^{-}] + [REE(CO_3)_2^{-}]$$

$$= \left\{ 1 + \sum_{A} \sum_{n} \frac{K(A,n) \cdot a^{n}(A^{m^{-}}) \cdot \gamma(REE(CO_{3})_{2})}{\gamma(REEA_{n}^{3-nm})} \right\} \cdot [REE^{3+}]$$
$$= (1+\theta) \cdot [REE^{3+}]$$
(6)

ここで, []:濃度 (mol/kg・H₂O), A:アニオン, a:活量, y:活量係数, K(A, n):次の反応の錯体 生成定数。

$$REE^{3+} + nA^{m-} = REEA_n^{3-nm} \tag{7}$$

(6), (7)より,

$$\frac{[REE^{3+}]}{[REE]_{total}} = \frac{1}{1+\theta}$$
(8)

$$\frac{[REEA_n^{3-nm}]}{[REE]_{total}} = \frac{K(A,n) \cdot a^n (A^{m-}) \cdot \gamma (REE^{3+})}{\gamma (REEA_n^{3-nm}) \cdot (1+\theta)}$$
(9)

(9)式より活量係数, 錯体生成定数が分かれば, 希土 類元素の溶液中での存在状態の割合が分かる。ここで 錯体生成定数は Tanaka *et al.* (2004) で与えられて いる値を用いた。また,活量係数はデービスの式を用 いて計算した。デービスの式はイオン強度(*I*) が0.5 以下で成り立つ。東濃地下水のイオン強度を計算する とI = 0.016となり, このイオン強度を上式に代入し 計算すると3価の $\gamma = 0.330$ , 2価の $\gamma = 0.6111$ , 1価の  $\gamma = 0.884$ となる

以上の値を(8),(9)式に適用して水溶液中の錯体の存 在状態の割合を求めた。その結果を Fig.8に示す。 Fig.8に示されるように,溶液中では炭酸塩錯体とフ リーイオンが共に混在しているために錯体の影響を考 慮しなければならない。したがって,より正確な分配 係数を得るためには,以下に示す希土類元素の錯体生 成定数を用いた補正を行う必要がある(田中, 2005)。

溶液中の希土類元素化学種が REECO<sub>3</sub><sup>+</sup>のみとした 場合の分配係数を  $K_d(REE)_u$ とすると,

$$REECO_{3\,sol}^{+} + Ca^{2+}{}_{cal} = REECO_{3\,cal}^{+} + Ca^{2+}{}_{sol} \qquad (10)$$

$$K_{d}(REE)_{\omega} = \frac{X_{REECO_{3}^{+}}/X_{Ca}^{2^{+}}}{[REECO_{3}^{+}]/[Ca^{2^{+}}]}$$
(11)

と表される。

ここで, sol:水溶液, cal:カルサイト, *X*:モル分率。

$$REE^{3^{+}} + CO_{3}^{2^{-}} = REECO_{3}^{+}$$
(12)

$$REE^{3^{+}} + 2 CO_{3}^{2^{-}} = REE(CO_{3})_{2}^{-}$$
(13)

の平衡定数は, それぞれ,

$$K(REECO_{3}^{+}) = \frac{a(REECO_{3}^{+})}{a(REE^{3+}) \cdot a(CO_{3}^{2-})}$$
$$= \frac{\gamma(REECO_{3}^{+}) \cdot [REECO_{3}^{+}]}{\gamma(REE^{3+}) \cdot [REE^{3+}] \cdot a(CO_{3}^{2-})}$$
(14)

$$K(REE(CO_{3})_{2}^{-}) = \frac{a(REE(CO_{3})_{2}^{-})}{a(REE^{3+}) \cdot a^{2}(CO_{3}^{2-})}$$
$$= \frac{\gamma(REE(CO_{3})_{2}^{-}) \cdot [(REE(CO_{3})_{2}^{-})]}{\gamma(REE^{3+}) \cdot [REE^{3+}] \cdot a^{2}(CO_{3}^{2-})}$$
(15)

である。

以上より、全希土類元素濃度は次式で表される。  
[REE]<sub>total</sub>  
=[REECO<sub>3</sub><sup>+</sup>]  

$$\left\{1 + \frac{\gamma(REECO_3^+) \cdot K(REECO_3^+) \cdot a(CO_3^{2^-})}{\gamma(REE(CO_3)_2^-) \cdot A(CO_3^{2^-})} + \frac{\gamma(REECO_3^+) \cdot K(REE(CO_3)_2^-) \cdot a(CO_3^{2^-})}{\gamma(REE(CO_3)_2^-) \cdot K(REECO_3^+)}\right\}$$

固相中での希土類元素の存在状態を REECO<sup>3+</sup>と仮 定すると

(16)

(18)

$$K_{d}(REE) = \frac{X_{REECO_{3}^{+}}/X_{ca}^{2+}}{[REE]_{total}/[Ca^{2+}]}$$
$$= K_{d}(REE)_{\omega} = \frac{[REECO_{3}^{+}]}{[REE]_{total}}$$
(17)

これより,

$$\log K_{d}(REE)_{\omega} = \log \begin{cases} 1 + \frac{\gamma(REECO_{3}^{+})}{\gamma(REE^{3^{+}}) \cdot K(REECO_{3}^{+}) \cdot a(CO_{3}^{2^{-}})} \\ \frac{\gamma(REECO_{3}^{+}) \cdot K(REE(CO_{3})_{2}^{-}) \cdot a(CO_{3}^{2^{-}})}{\gamma(REE(CO_{3})_{2}^{-}) \cdot K(REECO_{3}^{+})} \\ + \log K_{d}(REE) \end{cases}$$

と表される。

同じように,

$$K_{d}(REE)_{\theta} = \frac{[X_{REE(CO_{3})_{2}}]/X_{Ca}^{2+}}{[REE(CO_{3})_{2}^{-}]/[Ca^{2+}]}$$
(19)

$$log K_{d}(REE)_{\theta} = log \begin{cases} 1 + \frac{\gamma(REE(CO_{3})_{2}^{-})}{\gamma(REE^{3^{+}}) \cdot a^{2}(CO_{3}^{2^{-}}) \cdot K(REE(CO_{3})_{2}^{-})} \\ \frac{\gamma(REE(CO_{3})_{2}^{-}) \cdot K(REECO_{3}^{+})}{K(REE(CO_{3})_{2}^{-}) \cdot \gamma(REECO_{3}^{+}) \cdot a(CO_{3}^{2^{-}})} \\ + log K_{d}(REE) \end{cases}$$
(20)

と表される。

(18), (20)式 に東濃地下水のγ, aCO<sub>3</sub><sup>2-</sup>, K(REE (CO<sub>3</sub>)<sub>2</sub><sup>-</sup>), K(REE(CO<sub>3</sub>)<sup>+</sup>), 5.3.2で求めたKdを入 れ, 求められたKd(REE)<sub>a</sub>の平均パターンをFig. 9 に, Kd(REE)<sub>θ</sub>の平均パターンをFig. 10に示す。分 配係数の対数値は分配反応のギブス自由エネルギー変 化に対応するためKd(REE)<sub>a</sub>, Kd(REE)<sub>θ</sub>は温度や圧





力が一定なら一定値となる。 $Kd(REE)_{\omega}, Kd(REE)_{\theta}$ を比べると $Kd(REE)_{\omega}$ は右上がりのパターン、Kd(REE)<sub> $\theta$ </sub>は左上がりのパターンを示している。Fig. 8に示されたように、地下水中では希土類元素はほとんど REE( $CO_{3}$ )<sub>2</sub><sup>-</sup>の状態で存在しているため、Kd(REE)は REE( $CO_{3}$ )<sub>2</sub><sup>-</sup>に影響を受け、 $Kd(REE)_{\theta}$ と同じよう に左上がりのパターンになっている。ここでKd(REE) と $Kd(REE)_{\theta}$ が同様のパターンとなったことが確認されたため、上述の希土類元素に関するイオン半 径が大きくなると、みかけの分配係数が大きくなると いえる。

なお,今回の計算では固相中の希土類元素の存在状 態の検討が不十分であり,固相中の活動度係数が考慮 されていない。これについては今後の検討が必要であ る。

## 6. まとめ

本研究により明らかになった主な点は以下の通りで ある。

- (1) 炭酸塩鉱物中のコンドライト規格化希土類元素パ ターンは地下水と同じW型のテトラド効果を示した。これより炭酸塩鉱物は地下水から沈殿生成し, 炭酸塩鉱物中の希土類元素は地下水から取り込まれたと考えられる。
- (2) バルク岩石試料に比べ炭酸塩鉱物中には希土類元素が濃集している。また、希土類元素の中でも特に 軽希土類元素が濃集している。これは軽希土類元素 のイオン半径が Ca<sup>2+</sup>のイオン半径に近いことによ ると考えられる。
- (3)希土類元素の炭酸塩鉱物に対する分配係数は他の 元素(アルカリ元素,アルカリ土類元素)に比べる と非常に高いが,これはイオン半径とイオン状態で の電荷による影響であろう。
- (4) 炭酸塩鉱物中の希土類元素は地下水中から取り込まれ、またバルク岩石試料に比べて炭酸塩鉱物中に 濃縮していることから、化学的類似元素である放射 性元素(Am, Cm)も同じように炭酸塩鉱物に取 り込まれると考えられる。したがって、炭酸塩鉱物 は放射性元素(Am, Cm)の移動を遅らせる効果 (遅延効果)があると考えられる。
- (5) 以上のことから、高レベル放射性廃棄物(使用済 み核燃料)の地層処分によって生じる長期的核種移 行に関する安全評価をする際に、鉱物(固溶体)生 成による核種遅延効果を考慮しないといけないとい

える。

### 謝辞

本研究を遂行するに当たり,XRD,ICP-AESの分 析では東京学芸大学の中田正隆教授,ICP-MS,ICP-AESの分析では産業技術総合研究所の鈴木淳博士, 蓑島佳代博士,東京大学海洋研究所の井上麻夕里博士 にお世話になりました。ボーリングコア採取では原子 力開発研究機構の岩月輝希氏,水野崇氏,笹尾英嗣氏 にお世話になりました。また東京大学名誉教授の歌田 実先生にはボーリングコア試料の粉末X線回折結果 について教えていただきました。広島大学田中万也博 士,匿名査読者からは原稿に関し,多くのコメント, 間違いの指摘を受けました。以上の方々に感謝致しま す。

# 引用文献

- Busenberg, E. and Plummer, L. N. (1985) Kinetic and thermodynamic factors controlling the distribution of SO<sub>4</sub><sup>2-</sup> and Na<sup>+</sup> in calcites and selected aragonites. *Geochimica et Cosmochimica Acta* 49, 713–725.
- Curti, E. (1999) Coprecipitation of radionuclides with calcite: estimation of partition coefficients based on a review of laboratory investigations and geochemical data. Applied Geochemistry 14, 433-445.
- Doi, K., Hirano, S. and Sakamaki, Y. (1975) Uranium mineralization by groundwater in sedimentary rocks. *Economic Geology* 70, 628–645.
- 動力炉・核燃料開発事業因中部事業所(1994)日本 のウラン資源, 85-145.
- Elzinga, E. J., Reeder, R. J., Withers, S. H., Peale, R. E., Mason, R. A., Beck, K. M. and Hess, W. P. (2002) EXAFS study of rare-earth element coordination in calcite. *Geochimica et Cosmochimica Acta* 66, 2875–2885.
- Irber, W. (1999) The lanthanide tetrad effect and its correlation with K/Rb, Eu/Eu\*, Sr/Eu, Y/Ho, and Zr/Hf of evolving peraluminous granite suites. *Geochimica et Cosmochimica Acta* 63, 489–508.
- 糸魚川淳二(1974)瑞浪層群の地質.瑞浪化石博研 報, 1, 9-42.

- 糸魚川淳二(1992)海の古環境の復元一軟体動物化 石になる一.豊橋市自然史博研報,2,41-52.
- 糸魚川淳二・津田禾粒(1985)中新世熱帯系貝殻群 集の古生態特性一特にマングローブ沼群集につい て.瑞浪市化石博物館専報, 6, 171-182.
- Iwatsuki, T. and Yoshida, H. (1999) Groundwater chemistry and fracture mineralogy in the basement granitic rock in the Tono area, Gifu Prefecture, Japan - Groundwater composition and Eh evolution analysis by fracture filling mineral. *Geochemical Journal* 33, 19–32.
- Iwatsuki, T., Satake, H., Metcalf, R., Yoshida, H. and Hama, K. (2002) Isotopic and morphological features of fracture calcite from granitic rocks of the Tono area, Japan: a promising paleohydrogeological tool. *Applied Geochemistry* 17, 1241–1257.
- 金井豊・坂巻幸雄・瀬尾俊弘(1991)岐阜県東濃地 域におけるウラン系列核種の挙動とナチュラルア ナログとしての有用性.地質調査所月報,42, 249-266.
- 金井豊(2007)炭酸塩による放射性核種の吸着に関 する研究—研究の現状と課題—.地球化学,41, 1-16.
- Kawabe, I., Ohta, A., Ishii, S., Tokumura, M. and Miyauchi, K. (1999) REE partitioning between Fe-Mn oxyhydoxide precipitates and weakly acid NaCl solutions: convex tetrad effect and fractionation of Y and Sc from heavy lanthanides. *Geochemical Journal* 33, 167–179.
- 小林孝男(1989)岐阜県可児盆地東部の地質とウラン鉱化作用. 鉱山地質, **39**,79-94.
- Lakshtaov, L. Z and Stipp, S. L. S. (2004) Experimental study of europium (III) coprecipitation with calcite. *Geochimica et Cosmochimica Acta* 68, 819–827.
- 水野崇・岩月輝希(2006)地下深部における地球化 学的環境の長期的変遷―炭酸塩鉱物中の微量元素 に基づく解析例―.地球化学,40,33-45.
- 岡井貴司(1998)分別溶解/誘導結合プラズマ発光 分析法による炭酸塩岩石標準試料中の炭酸塩態成 分の定量.分析化学,47,455-458.
- Peppard, D. F., Manson, G. W. and Lewey, S. (1969) A tetrad effect in the liquid-liquid extraction or-

dering of lanthanide (III). Journal of Inorganic Nuclear Chemistry **31**, 2271–2272.

- Shannon, R. D. and Prewitt, C. T. (1969) Effective ionic radii in oxides and fluorides. Acta Crystallographica section B 25, 925–946.
- Shikazono, N. and Utada, M. (1997) Stable isotope geochemistry and diagenetic alteration associated with the Tono sandstone-type uranium deposit in Japan. *Mineralium Deposita* **32**, 596– 606.
- 鹿園直建(2002)水溶液─無機・生体鉱物間微量元 素分配とその環境問題への応用.岩石鉱物科学, **31**, 197-207.
- 鹿園直建・武藤逸紀(2004)硫黄同位体から推定し た第三紀中新世瑞浪層群の堆積・続成環境.地質 学雑誌, 110, 363-371.
- Takahashi, Y., Yoshida, H., Sato, N., Hama, K., Yusa, Y. and Shimizu, H. (2002) W-and M-type tetrad effects in REE patterns for water-rock systems in the Tono uranium deposit, central Japan. Chemical Geology 184, 311-335.
- Tanaka, K., Ohta, A. and Kawabe, I. (2004) Experimental REE partitioning between calcite and aqueous solution at 25°C and 1 atm: Constraints on the incorporation of seawater REE into seamount-type limestones. *Geochemical Journal* 38, 19–32.
- 田中万也(2005)海成石灰岩と分配係数を用いた古 代海水の希土類元素存在度の新しい推定法.地球 化学,**39**,65-72.
- Terakado, Y. and Masuda, A. (1988) The coprecipitation of rare-earth elements with calcite and aragonite. *Chemical. Geology* **69**, 103–110.
- Utada, M. (2003) Smectite-zeolite envelope surrounding the Tsukiyoshi uranium deposit, Central Japan: A natural analogue study. *Resource Geology* **53**, 293–304.
- 吉田英一(1996)ナチュラルアナログ研究の再考-東濃ウラン鉱床における研究を例にして--. 放射 性廃棄物研究, 2, 93-103.
- Yusa, Y. and Yamakawa, M. (1992) Tono in situ research facilities for studies of the geological environment. Guidebook of 29th IGC field trip B 18.

Yusa, Y., Ishimaru, K., Ota, K. and Ueda, R. (1993) Geological and geochemical indications of paleohydrogeology in Tono uranium deposits, Japan. TR-GE-93-03, PNC TN 7410 94-015, 68 P.

Zhong, S. and Mucci. A. (1995) Partitioning of rare

earth elements (REE) between calcite and seawater solutions at 25°C, latm, and high dissolved REE concentrations. *Geochimica et Cosmochimica Acta* **59**, 443–453.